



エコアクション

21

対象期間

2023.11~2024.10



—環境経営レポート—

作成日：2024年11月13日

発行日：2024年11月15日

第17版

(1) 組織の概要

1. 事業所名及び代表者名

サンワ化学株式会社

取締役 社長 西野 勝皓

取締役相談役 西野 貫通

2. 所在地

(本社・工場) 静岡県袋井市浅羽2777-1
(同笠 工場) 静岡県袋井市西同笠921-18



(工業薬品タンク群)

3. 環境管理の責任者及び担当者、連絡先

環境管理責任者 寺田昌隆
本社事務局 水野 知
同笠事務局 鈴木克昌 古本南早

連絡先：TEL (0538)23-6611(代)
：FAX (0538)23-7918
：Eメール jimu@sanwakagaku.com
：URL http://sanwa-kagaku.website



(工業薬品運搬トラック)

4. 事業の内容

工業薬品の製造販売、水処理装置、化学装置の販売、化学洗浄工事

許可証名	登録番号	有効年月日
毒物劇物製造業	登録番号63号	令和6年11月28日から 令和11年11月27日まで
毒物劇物製造業	登録番号190号	令和6年10月17日から 令和11年10月16日まで
毒物劇物輸入業	登録番号東海第10074	令和6年11月30日から 令和11年11月29日まで
毒物劇物一般販売業	登録番号西保B第 1-258号	令和4年11月28日から 令和10年11月27日まで
アルコール販売事業許可書	番号2-3-00300	—
高圧ガス販売業	消第30号-6	—
食品添加物製造許可	許可番号69200800105	令和10年5月末日まで
ISO 9001:2015	登録番号06917	2026年10月16日まで
エコアクション21	登録・認証番号0002171	2026年 2月 7日まで

5. 事業の規模

2023年度(2023年11月~2024年10月)

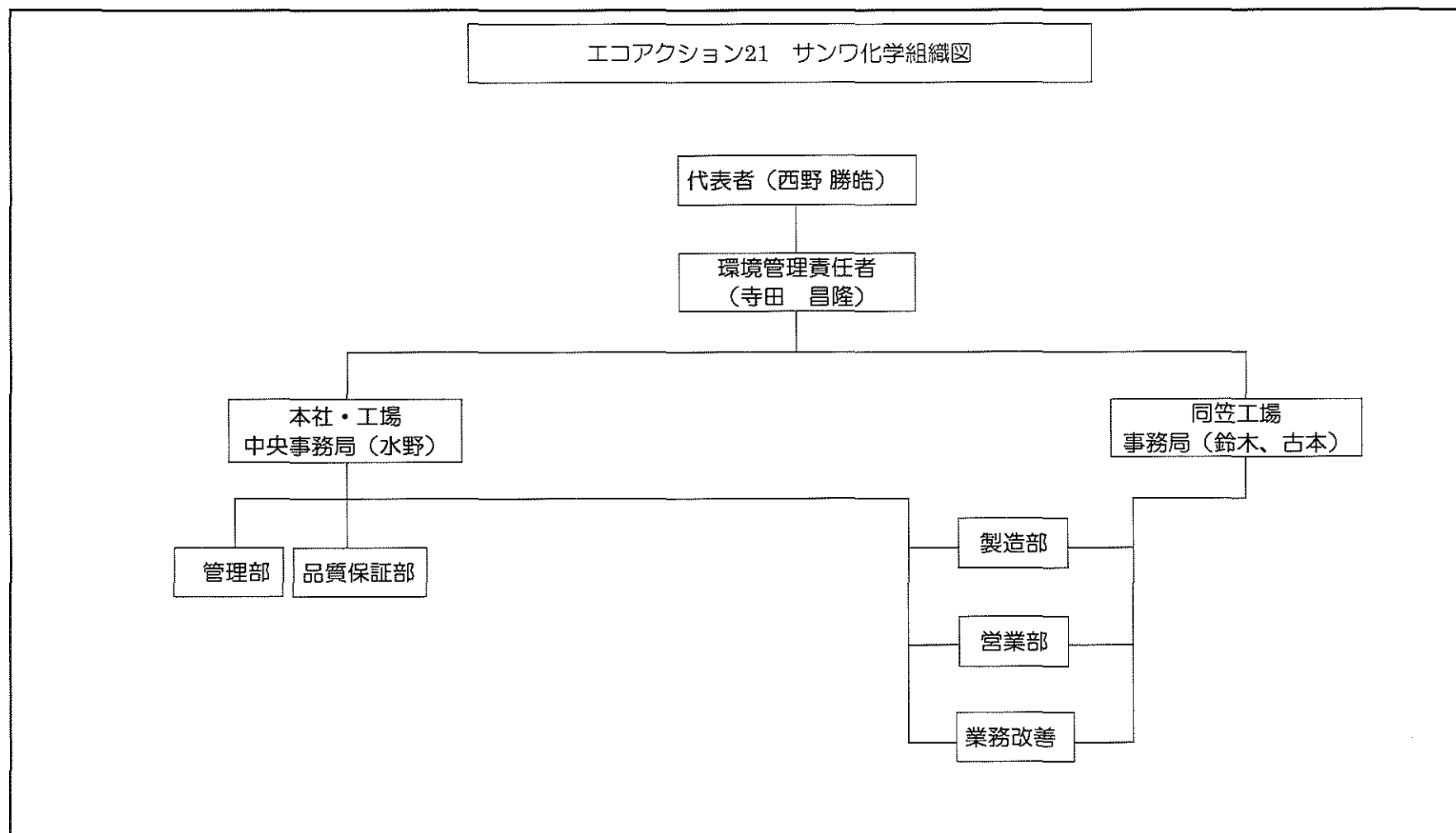
活動規模	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総製品生産量	t	14,551	15,944.80	16,171.00	15,937.80	15,019.20	13,573.00
売上高	百万円	2,066	2,031	1,608	1,980	2,257	2,147
従業員	人	81	93	47	48	47	49
床面積	m ²	6,309	6,429	2,886	2,886	2,886	2,886
(本社・工場)		(1,694)	(1,694)	(1,694)	(1,694)	(1,694)	(1,694)
(同笠 工場)		(880)	(1,000)	(1,192)	(1,192)	(1,192)	(1,192)
(津 事業所)		(2,071)	(2,071)				
(直方事業所)		(1,664)	(1,664)				

*2017年度から本社は上位主要5品目の生産量に変更。分社化により2020年度以降は本社・工場及び同笠工場が対象範囲

(2)-1 対象範囲

○事業の内容

工業薬品の製造販売、水処理装置、化学装置の販売、化学洗浄工事



(2)-2 各自の役割及び責任・権限

●代表者

- ①環境経営方針を定め、全従業員に周知する
- ②環境責任者を定める
- ③資源（人・もの・資源・情報）の提供
- ④システム全体の評価と見直しを行い、必要な指示を行う

●環境管理責任者

- ①システムの総責任者としての役割権限を他の責任に関わりなく持つ
- ②システムの実績を代表者に定期的に報告する
- ③環境経営レポート等の文書の作成管理
- ④各事務局合同会議の実施
- ⑤従業員への一般教育等の実施

●中央（本社・工場）事務局員

- ①全体及び本社・工場の計画の立案
- ②環境への負荷の自己チェック表等の文書の作成管理
- ③活動内容の把握、効果の確認

●同笠工場事務局員

- ①同笠工場の計画の立案
- ②環境への負荷の自己チェック表等の文書の作成管理
- ③活動内容の把握、効果の確認

●各課部署長

- ①活動計画の推進
- ②作業教育の実施
- ③実施状況の確認

●各従業員

- ①活動計画の実践
- ②取組への積極的な参加



サンワ化学株式会社
SANWA KAGAKU CORP.

環境経営方針

基本理念

われわれは社会の一員であることを理解し、地球規模で広がる環境問題に対し、持続可能な社会の実現のために行動することを誓約する

環境方針

- ・ 自然環境および生態系の保全、維持に配慮する
- ・ 生産や販売などの事業活動により発生する環境負荷を調査し、二酸化炭素、廃棄物および水の排出量削減に努めるとともに、化学物質においても適正管理を行う
- ・ 環境経営において継続的改善を行うことを誓約する
- ・ 適用される環境関連法規などを適切に把握し、遵守することを誓約する
- ・ 環境経営方針は全従業員に周知する

制定日：2023 年 3 月 01 日

改訂日：2024 年 3 月 25 日

サンワ化学株式会社 代表取締役社長 西野勝皓

(4) 環境経営目標

(4)-1 当年度の環境目標

(2022年度実績値基準)

項目		単位	2023年度目標	目標数値
本社・工場	CO2排出量 (購入電力、化石燃料を対象)	kg・CO2	+5%	255,261.59
	購入電力	kwh		163,194.60
	ガソリン使用量	L	-2%	10,027.00
	軽油使用量	L	+2%	68,844.90
	LPG使用量	kg	前年度維持	747.80
	産業廃棄物排出量	t	+65%	92.08
	一般廃棄物排出量	t	+5%	2.26
	総排水量	m ³	-2%	4,648.14
	化学物質	-	適正管理	適正管理
	調整回数	回	2回以内	2回以内
同笠工場	CO2排出量 (購入電力、化石燃料を対象)	kg・CO2	+10%	29,566.49
	購入電力	kwh	+10%	33,269.50
	ガソリン使用量	L	—	—
	軽油使用量	L	—	—
	LPG使用量	kg	+16%	5,251.21
	産業廃棄物排出量	t	+15%	15.15
	一般廃棄物排出量	t	前年度維持	2.60
	総排水量	m ³	+10%	260.54

(4)-2 中長期目標

各事業所単独目標

(2022年度実績値基準とする)

項目		2024年度 目標	2025年度 目標	2026年度 目標
本社・工場	CO2排出量	±0	-3%	-3%
	購入電力	+10%	+5%	+5%
	ガソリン使用量	±0	-8%	-8%
	軽油使用量	±0	-5%	-5%
	LPG使用量	±0	-2%	-2%
	産業廃棄物排出量	±0	-5%	-5%
	一般廃棄物排出量	±0	-2%	-2%
	総排水量	±0	-5%	-5%
	化学物質	適正管理	適正管理	適正管理
	不適合製品の調整回数の低減	2回以内	2回以内	2回以内
同笠工場	CO2排出量	±0	+5%	+5%
	購入電力	+10	+10%	+35%
	ガソリン使用量	-	-	-
	軽油使用量	-	-	-
	LPG使用量	±0	-10%	-10%
	産業廃棄物排出量	±0	-3%	-3%
	一般廃棄物排出量	±3	-2%	-2%
	総排水量	±0	-3%	-3%

(5)-1 次年度の環境経営計画 全社（本社・工場 同笠工場）

2024年度（2024年11月～2025年10月）

1. 二酸化炭素排出量、購入電力、化石燃料

取組目標		単位	目標数量	実質数量	削減数量 (前年比)	割合 (%)	活動内容	本社・工場		2024年度スケジュール											
								責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	電気使用量 対前年+20%	kwh	205,993.20	—	—	—	不使用時、退室時の照明OFF	寺田 昌隆	鈴木 俊	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	活動計画作成 ルーニング			
							機器のタイマー・センサー制御化の推進												取組実施	EA21 ルーニング	取組実施
2	ガソリン使用量 対前年度±0	L	9,809.00	—	—	—	アイドリングストップの徹底	西野 友恵	永井 祐介	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	活動計画作成 ルーニング			
							車両更新時の低燃費車購入												取組実施	EA21 ルーニング	取組実施
3	軽油使用量 対前年度±0	L	68,614.00	—	—	—	車両運行管理(燃費管理)	吉岡 秀哲	吉岡	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	活動計画作成 ルーニング			
							アイドリングストップの徹底												取組実施	EA21 ルーニング	取組実施
4	LPG使用量 対前年度±0	Kg	4,107.60	—	—	—	温水使用状況の確認	寺田 昌隆	鈴木 俊	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	活動計画作成 ルーニング			
							設定温度を調節												取組実施	EA21 ルーニング	取組実施
活動実施確認・評価										確認・評価			確認・評価			確認・評価					

2. 廃棄物排出量

取組目標		単位	目標数量	実質数量	削減数量 (前年比)	割合 (%)	活動内容	本社・工場		2024年度スケジュール											
								責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	塵埃（塵）類 対前年度±0	t	88,845	—	—	—	ビニール袋・ダンボール等分別の徹底	寺田 昌隆	鈴木 俊	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	活動計画作成 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	活動計画作成 ルーニング
							塵埃の一部を有価物へと振り分けと 木くず排出量把握														
2	一般廃棄物（段ボール・屑鉄等） 対前年度±0	t	4.51	—	—	—	分別の徹底	寺田 昌隆	鈴木 俊	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	活動計画作成 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	活動計画作成 ルーニング
活動実施確認・評価												確認・評価			確認・評価			確認・評価			総め、作成

3. 排水量

取組目標		単位	目標数量	実質数量	削減数量 (前年比)	割合 (%)	活動内容	本社・工場		2024年度スケジュール											
								責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	総排水量 対前年度±0	m	4,872.73	—	—	—	溶解槽洗浄水の再利用	寺田 昌隆	鈴木 俊	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	活動計画作成 ルーニング			
							バルブの調整による水圧の調節			取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	取組実施	EA21 ルーニング	取組実施	見直し ルーニング	活動計画作成 ルーニング			
活動実施確認・評価												確認・評価			確認・評価			確認・評価			総め、作成

4. 化学物質

取組目標		単位	目標数量	実質数量			活動内容	本社・工場		2024年度スケジュール											
								責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	—	—	適正管理	—	適正管理	—	使用量の把握	寺田 昌隆	水野 知	取組実施										活動計画作成	
							適正保管・管理		寺田 昌隆	取組実施										活動計画作成	
							活動実施確認・評価												確認・評価		

5. 不適合製品の調整回数

取組目標		単位	目標数量	実質数量	削減割合	-	活動内容	本社・工場		2024年度スケジュール											
								責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	2	回	2	—	—	—	不適合による調整回数把握	西尾	鈴木 俊	取組実施										活動計画作成 ルーニング	
							是正・予防処置の実施確認		寺田 昌隆	取組実施										活動計画作成 ルーニング	
活動実施確認・評価										確認・評価			確認・評価			確認・評価			総め、作成		

6. 法令遵守活動

取組目標		活動内容	本社・工場		2024年度スケジュール												
			責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法令遵守	年一回以上廃棄物処分の実地確認を実施する	寺田 昌隆	寺田 昌隆	取組実施（処理、委託先現地確認）												活動計画作成 実地確認
2		マニフェストの適正管理		水野 知	取組実施												活動計画作成
3		フロン排出抑制法の遵守		第一種特定製品の定期点検実施	寺田 昌隆	取 組 実 施（ 定 期 点 検 ）											
活動実施確認・評価																	総め、作成

(6)-1 当年度の環境活動内容 本社・工場

2023年度（2023年11月～2024年10月）

1. 二酸化炭素排出量、購入電力、化石燃料

取組目標		単位	目標数量	実質数量	削減数量 (前年比)	割合(%)	活動内容	本社・工場		2023年度スケジュール											
								責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	電気使用量 対前年度+13%	kwh	163,194.60	141,180.00	-22,014.60	-13.49	不使用時、退室時の照明OFF	寺田 昌隆	水野 知	取組実施				見直し	取組実施				見直し	活動計画作成	
							機器のタイマー・センサー制御化の推進				取組実施				6/12確認 7/12確認 8/9確認 9/12確認					10/16確認	
2	ガソリン使用量 対前年度-2%	L	10,027.00	9,744.80	-282.20	-2.81	アイドリングストップの徹底	西野 友香	永井 祐介	取組実施				見直し	取組実施				見直し	活動計画作成	
							車両更新時の低燃費車購入				取組実施				6/12確認 7/12確認 8/9確認 9/12確認					10/16確認	
3	軽油使用量 対前年度+2%	L	68,844.90	68,091.70	-753.20	-1.09	車両運行管理(燃費管理)	吉岡 秀哲	吉岡	取組実施				見直し	取組実施				見直し	活動計画作成	
							アイドリングストップの徹底				取組実施				6/12確認 7/12確認 8/9確認 9/12確認					10/16確認	
4	LPG使用量 対前年度維持	Kg	747.80	470.60	-277.20	-37.07	温水使用状況の確認	水野	平出	取組実施				見直し	取組実施				見直し	活動計画作成	
							設定温度を調節				取組実施				6/12確認 7/12確認 8/9確認 9/12確認					10/16確認	
活動実施確認・評価										1月31日確認・評価実施			4月30日確認・評価実施			7月30日確認・評価実施			10月31日確認・評価実施・総め		

2. 廃棄物排出量

取組目標		単位	目標数量	実質数量	削減数量 (前年比)	割合(%)	活動内容	本社・工場		2023年度スケジュール											
								責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	産廃（廃アラミ） 対前年度+65%	t	92.08	90.53	-1.55	-1.68	ビニール袋・ダンボール等分別の徹底	水野	鈴木 俊	取組実施				見直し ルーニング	取組実施				見直し	活動計画作成	
							産廃の一部を有価物へと振り分けと 木くず排出重量把握			取組実施					取組実施					活動計画作成	
2	一般廃棄物（鉄く 入、段ボール） 対前年度+5%	t	2.26	2.11	-0.15	-6.64	分別の徹底	寺田 昌隆	寺田 昌隆	取組実施				見直し ルーニング	取組実施				見直し	活動計画作成	
							活動実施確認・評価				1月31日確認・評価実施				4月30日確認・評価実施			7月30日確認・評価実施			10月31日確認・評価実施・総め

3. 総排水量

取組目標		単位	目標数量	実質数量	削減数量 (前年比)	割合(%)	活動内容	本社・工場		2023年度スケジュール											
								責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	総排水量 対前年度-2%	㎡	4,648.14	4,616.65	-31.49	-0.68	調合槽、ローリー、コンテナ洗浄水使用量の把握	寺田 昌隆	寺田 昌隆	取組実施			見直し ルーニング	取組実施			見直し ルーニング	活動計画作成			
							容器、設備の洗浄方法改（節水）			取組実施				取組実施				活動計画作成			
							10/											1月31日確認・評価実施			4月30日確認・評価実施

4. 化学物質

取組目標		単位	目標数量	実質数量			活動内容	本社・工場		2023年度スケジュール											
								責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	—	適正管理	—	適正管理	—	使用量の把握	寺田 昌隆	水野 知	取組実施										活動計画作成		
						適正保管・管理		寺田 昌隆	取組実施										活動計画作成		
						活動実施確認・評価										1月31日確認・評価実施			4月30日確認・評価実施		

5. 不適合製品の調整回数

取組目標		単位	目標数量	実質数量	削減数量 (前年比)	割合(%)	活動内容	本社・工場		2023年度スケジュール											
								責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	2.00	回	2.00	0.00	2.00	100.00	不適合による調整回数把握	西尾	寺田 昌隆	取組実施										活動計画作成	
							是正・予防処置の実施確認		寺田 昌隆	取組実施										活動計画作成	
活動実施確認・評価									3月17日確認・評価実施			6月16日確認・評価実施			9月15日確認・評価実施			12月14日確認・評価実施・総め			

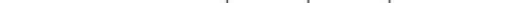
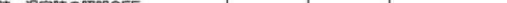
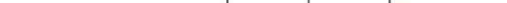
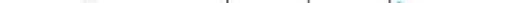
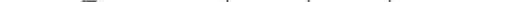
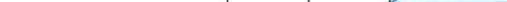
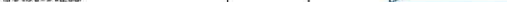
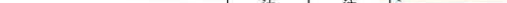
6. 法令遵守活動

取組目標		活動内容	本社・工場		2023年度スケジュール													
					責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法令遵守	年一回以上廃棄物処分の実地確認を実施する	寺田 昌隆	水野 知	取組実施（処理、委託先現地確認）												活動計画作成 10/25確認	
2		マニフェストの適正管理			取組実施												活動計画作成 11/1確認	
3	フロン排出抑制法の遵守	第一種特定製品の定期点検実施	寺田 昌隆	寺田 昌隆	取 組 実 施（ 定 期 点 検 ）												活動計画作成	
活 動 実 施 確 認 ・ 評 価					点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施
					1月31日確認・評価実施			4月30日確認・評価実施			7月30日確認・評価実施			10月31日確認・評価実施・纏め				

(6)-2 当年度の環境活動内容 同登工場

2023年度（2023年11月～2024年10月）

1. 二酸化炭素排出量、購入電力、化石燃料

取組目標	単位	目標数量	実績数量	削減数量 (前年比)	割合(%)	活動内容	同登工場		2023年度スケジュール												
							責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
1	電気使用量 対前年度+10%	kwh	33,269.50	30,481.00	-2,788.50	-8	不使用時、退室時の照明OFF	辻	久保		取組実施	見直し		6/12確認	7/12確認	8/9確認	9/12確認	10/16確認	活動計画作成		
							機器のタイマー・センサー制御化の推進														
							空調の過温化 (冷房27℃暖房21℃)														
2	ガソリン使用量 対前年度	L	—	—	—	—	—	—	—		取組実施	見直し		6/12確認	7/12確認	8/9確認	9/12確認	10/16確認	活動計画作成		
							—														
3	軽油使用量 対前年度	L	—	—	—	—	—	—	—		取組実施	見直し		6/12確認	7/12確認	8/9確認	9/12確認	10/16確認	活動計画作成		
							—														
4	LPG使用量 対前年度+16%	Kg	5,251.21	5,220.50	-30.71	(0.59)	温水使用状況の確認	辻	辻		取組実施	見直し		6/12確認	7/12確認	8/9確認	9/12確認	10/16確認	活動計画作成		
							設定温度を調節														
活 動 実 施 確 認 ・ 評 価										1月31日確認・評価実施			4月30日確認・評価実施			7月30日確認・評価実施			10月31日確認・評価実施・総め		

2. 廃棄物排出量

取組目標	単位	目標数量	実績数量	削減数量 (前年比)	割合(%)	活動内容	同登工場		2023年度スケジュール												
							責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
1 産廃（廃ア）類 対前年度+15%	t	15.15	15.02	-0.13	-0.86	ビニール袋・ダンボール等の分別の徹底	辻	竹下	取組実施					見直し ルーン	取組実施					見直し	活動計画作成
						取組実施					見直し ルーン	取組実施					見直し	活動計画作成			
						産廃の一部を有価物へと振り分けと 木くず排出重量把握					取組実施					見直し ルーン	取組実施				
2 一般廃棄物 対前年度維持	Kg	2.6	2.40	0	-8	分別の徹底			取組実施					見直し ルーン	取組実施					見直し	活動計画作成
活動実施確認・評価									1月31日確認・評価実施			4月30日確認・評価実施			7月30日確認・評価実施			10月31日確認・評価実施・締め			

3. 総排水量

取組目標	単位	目標数量	実績数量	削減数量 (前年比)	割合(%)	活動内容	同登工場		2023年度スケジュール												
							責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
1	総排水量 対前年度+10%	m	260.54	256.06	-4.48	-1.72	溶剤洗浄水の再利用	辻	古本	取組実施			見直し トレーニング	取組実施			見直し	活動計画作成			
										取組実施			見直し トレーニング	取組実施			見直し	活動計画作成			
活動実施確認・評価										1月31日確認・評価実施			4月30日確認・評価実施			7月30日確認・評価実施			10月31日確認・評価実施・締め		

4. 化学物質

取組目標	単位	目標数量	実績数量			活動内容	同登工場		2023年度スケジュール												
							責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
1	O	—	適正管理	—	適正管理	—	使用量の把握	辻	久保	取組実施										活動計画作成	
										取組実施										確認	
										適正保管・管理										確認	
活動実施確認・評価										3月17日確認・評価実施			6月16日確認・評価実施			9月15日確認・評価実施			12月14日確認・評価実施・締め		

5. 不適合製品の調整回数

取組目標	単位	目標数量	実績数量	削減割合	-	活動内容	同登工場		2023年度スケジュール											
							責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	2	回	2	—	—	不適合による調整回数把握 是正・予防処置の実施確認	辻	鈴木克	取組実施										活動計画作成	
									取組実施										確認	
									取組実施										活動計画作成	
活動実施確認・評価									1月31日確認・評価実施			4月30日確認・評価実施			7月30日確認・評価実施			10月31日確認・評価実施・締め		

6. 法令遵守活動

取組目標		活動内容	同登工場		2023年度スケジュール												
			責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法令遵守	年一回以上廃棄物処分の実地確認を実施する	辻	久保	取組実施（処理、委託先現地確認）												活動計画作成
2		マニフェストの適正管理		取組実施												10/25確認	
3	フロン排出抑制法の遵守	第一種特定製品の定期点検実施		鈴木克	kakuninn												活動計画作成
		活動実施確認・評価			点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	点検実施	活動実施・締め
					1月31日確認・評価実施			4月30日確認・評価実施			7月30日確認・評価実施			10月31日確認・評価実施			

(7)-1 環境経営目標の実績 本社・工場

1 環境目標

2023年度の取組みは2023年11月から期末2024年10月までの取り組みとなります。

*購入電力の二酸化炭素の排出係数0.302Kg・CO2/kwh（リコージャパンR2年度実績 メニューC調整後排出係数適用）

		単位	削減目標 数値	実測値	結果
1	二酸化炭素排出量の削減 (2022年度実績ベースに+5%)	kg・CO2	255,261.59	237,518.44	全体的に使用量の削減でCO2削減
2	購入電力使用量の削減 (2022年度実績ベースに+13%)	kwh	163,194.60	141,180.00	振使用時の照明その他設備 電源OFFにより削減
3	購入化石燃料使用量の削減 (ガソリン) (2022年度実績ベースに-2%)	L	10,027.00	9,744.80	低燃費車導入とアイドリングストップにより 使用量削減
4	購入化石燃料使用量の削減 (軽油) (2022年度実績ベースに-前年度+2%)	L	68,844.00	68,091.70	デジタコ車輻運行管理と低燃費車導 入による削減
5	LPG使用量の削減 (2022年度実績ベースに前年度維持)	kg	747.80	470.60	温水使用量が少なかった為削減
6	産業廃棄物排出量の削減 (2022年度実績ベースに+65%)	t	92.08	90.53	有価物と木くずの排出量が大幅に増 えたが削減
7	一般廃棄物排出量の削減 (2022年度実績ベースに+5%)	t	2.26	2.11	再利用品含む分別も出来削減
8	総排水量の削減 (2022年度実績ベースに-2%)	m³	4,648.14	4,616.65	原料容器洗浄排水が比較的多かった が削減
9	化学物質の適正管理	-	-	適正管理	適正保管
#	製造品調整回数	回	2.00	0.00	不適合無

※廃棄物排出量に関しては産業廃棄物と一般廃棄物のみ適用。

△は一般廃棄物にくす鉄、段ボール、プラスチック容器の有償にて再生している物を含めている為数量が大きい。

2 環境負荷実績

当社における二酸化炭素の排出量、廃棄物の排出量、水の使用量の2022年度の実績は以下の通りです。

※2019年度までは津及び直方を含めた全社の数値ですが、分社化により2020年度以降が本社・工場単独の
数値となっています

		項目	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1	二酸化炭素排出量	絶対量	Kg・CO2	473,260.68	266,983.04	269,346.69	243,106.28	237,518.44
		製造量1t当たり	Kg・CO2/t	29.68	22.19	25.04	23.50	23.12
	電気	絶対量	Kg・CO2	545,508.00	157,792.00	44,336.32	43,614.84	38,259.78
		製造量1t当たり	Kg・CO2/t	34.21	13.11	4.12	4.22	3.72
	ガソリン	絶対量	Kg・CO2	13,626.93	10,786.80	25,025.38	23,737.54	22,607.94
		製造量1t当たり	Kg・CO2/t	0.85	0.90	2.33	2.29	2.20
	軽油	絶対量	Kg・CO2	89,446.28	76,557.40	197,518.09	174,138.65	175,676.59
		製造量1t当たり	Kg・CO2/t	5.61	6.36	18.36	16.83	17.10
	LPG	絶対量	Kg・CO2	3,012.28	822.30	2,466.90	1,615.25	974.14
		製造量1t当たり	Kg・CO2/t	0.19	0.07	0.23	0.16	0.09
2	総廃棄物排出量	絶対量	t	76.12	33.49	56.08	55.81	90.10
		製造量1t当たり	t/t	0.005	0.003	0.005	0.005	0.009
3	総排水量	絶対量	m³	9,638.47	5,273.00	4,537.00	4,743.00	4,616.65
		製造量1t当たり	m³/t	0.60	0.44	0.42	0.46	0.45

総商品生産量	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	t	15,944.80	12,034.00	10,757.00	10,345.00	10,274.00

(7)-2 環境経営目標の実績 同笠工場

1 環境目標

2023年度の取組みは2023年11月から期末2024年10月までの取り組みとなります。

*購入電力の二酸化炭素の排出係数0.266Kg・CO2/kwh（リコージャパンR1年度実績 メニューC調整後排出係数適用）

		単位	削減目標 数値	実測値	結果
1	二酸化炭素排出量の削減 (2022年度実績ベースに+10%)	kg・CO2	29,566.49	28,890.25	全体的に使用量削減により CO2排出量削減
2	購入電力使用量の削減 (2022年度実績ベースに+10%)	kwh	33,269.50	30,481.00	設備、照明不使用時 OFFにより削減
3	購入化石燃料使用量の削減 (ガソリン)	L	—	—	—
4	購入化石燃料使用量の削減 (軽油)	L	—	—	—
5	LPG使用量の削減 (2022年度実績ベースに+16%)	kg	5,251.21	50,220.50	亜硝酸ソーダ出荷増、短納期対応 で増えたが削減
6	産業廃棄物排出量の削減 (2022年度実績ベースに+15%)	t	1,515.00	15.02	有価物再利用と分けながら削減
7	一般廃棄物排出量の削減 (2022年度実績ベース)	t	2.60	2.40	有価物品の管理が 産廃扱いにより削減
8	総排水量の削減 (2022年度実績ベースに+10%)	m ³	260.54	256.06	純水装置再生頻度が増えたが 排水量削減
9	化学物質の適正管理	—	—	—	—
#	製造品調整回数	回	—	—	—

※一般廃棄物排出量に関しては古紙・段ボール等のみ適用、ガラスと発泡スチロールは産業廃棄物とした
一般廃棄物の数量は今期から計測開始

2 環境負荷実績

当社における二酸化炭素の排出量、廃棄物の排出量、水の使用量の2022年度の実績は以下の通りです

※2019年度までは津及び直方を含めた全社の数値ですが、分社化により2020年度以降が同笠工場単独の
数値となっています

		項目	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1	二酸化炭素排出量	絶対量	Kg・CO2	47,260.68	20,248.58	2,636.13	26,787.63	28,890.25
		製造量1t当たり	Kg・CO2/t	2.96	4.89	0.51	5.73	8.76
	電気	絶対量	Kg・CO2	545,508.00	33,024.00	12,779.03	30,245.00	30,481.00
		製造量1t当たり	Kg・CO2/t	34.21	7.98	2.47	6.47	9.24
	ガソリン	絶対量	Kg・CO2	13,626.93	0.00	0.00	0.00	0.00
		製造量1t当たり	Kg・CO2/t	0.85	0.00	0.00	0.00	0.00
	軽油	絶対量	Kg・CO2	89,446.28	0.00	0.00	0.00	0.00
		製造量2t当たり	Kg・CO2/t	5.61	0.00	0.00	0.00	0.00
	LPG	絶対量	Kg・CO2	3,012.28	3,821.40	13,457.10	4,584.10	5,220.50
		製造量3t当たり	Kg・CO2/t	0.19	0.92	2.60	0.98	1.58
2	総廃棄物排出量	絶対量	t	76.12	13.22	18.76	15.26	15.02
		製造量4t当たり	t/t	0.005	0.003	0.004	0.003	0.005
3	総排水量	絶対量	m ³	9,638.47	550.55	441.24	236.87	256.06
		製造量5t当たり	m ³ /t	0.60	0.13	0.09	0.05	0.08

総商品生産量	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	t	15,944.80	4,136.83	5,180.80	4,674.21	3,299.00

(7)-3 2023 年度環境経営活動の取組確認、評価表

(2023 年 11 月～2024 年 10 月) ※確認・評価実施者：環境管理責任者

項目	確認・評価実施月日：1 月 31 日	確認・評価実施月日：4 月 30 日	確認・評価実施月日：7 月 31 日	確認・評価実施月日：10 月 31 日	評価実施月日：11 月 1 日
	確認及び評価の内容	確認及び評価の内容	確認及び評価の内容	確認及び評価の内容	総合評価
温室効果ガス 排出量 (CO2)	本社工場は前年度よりも低かった 同笠工場は少し排出量が増えていた	本社工場は前年度に比べ排出量が下がっていた 同笠工場は 2 月に受給電力不具合があり購入電力が上がったせいで田舎使用量が上がった	本社工場は例年並み 同笠工場は前年度よりも若干上がっている	前年度に比べ排出量は低減されていた	本社工場並びに同笠工場共に年間生産量が減少傾向で目標数値も下がった。
購入電力	節電効果かで購入電力量は低かった	本社工場は横ばい 同笠工場前年度並み	夏場の気温上昇でエアコンを常時運転している設備の影響で少し上がった	節電による使用量の低減につながった	節電による目標数値を下回った
ガソリン使用量	前年度と例年並みの使用量	若干前年度より使用量が上がった	7 月は営業者もエアコンの使用は増え、ガソリンの使用量も上がった	例年よりも使用量が下がった	昨年同様社用車の通勤手段と、本社、同笠、宇刈の分散化で移動する頻度と営業頻度が増えたが目標数値以内だった
軽油使用量	前年度よりも使用量が増えた 冬場の寒い時期、遠方	使用量は例年並み	配送業務も運転中常時エアコン私用で軽油使用量も上がっていた	業務課のシフト制で休憩時間を確りとるがエンジンかけての休憩の為、使用量が増えている目標値修正	配送量はそれほど増えていないが、シフト制に変更後の車内休憩が使用量増の影響となっている
LPG使用量	本社、同笠工場による温水の使用状況の確認	本社は例年並みの使用量 同笠は亜硝酸ソーダ製造工程で 使用量が多い	本社例年並み 同笠は冬場に比べ使用量は少し下がった	本社例年並み 同笠工場は前年度に比べ使用量がふて きているので目標値修正	同笠工場亜硝酸ソーダの出荷増と短納期に合わせる為温水の使用量が増えてしまった 本社工場は製造での温水使用量が目標値を下回った
総排水量	タンク洗浄水低減による排水 量低減及びその他	同笠排水量は例年並み 本社はタンク洗浄水、コンテナ洗浄以外の原料容 器洗浄における水使用量が増えている	同笠は目標値修正 本社は半数量が少し下がった	本社、同笠同左	同笠工場は総合的に総排水量が目標値より超えてしまった 本社は同一製品連続製造で、洗浄回数が減り目標数値以内で済んだが 原料容器の洗浄を設備化すればもう少し総排水量が下げる
廃棄物排出量	産業廃棄物排出量数量把握	前年度は無かった木くずの排出で数量が増えた	有価物に於ける排出量は前年度並 み、木くずの排出量が増えている 本社、同笠工場共に目標値修正	前年度は無かった木くずの排出量が全 体として増えた。	今年度は産業廃棄物での管理の有価物の数量が若干増えた。 前年度までなかった木くずの産業廃棄物が増えたが、実際の重量を計 測できなかった為、mから重量換算で増えた傾向にある
化学物質	危険物、毒劇物の適正保管	適正保管されている	同左	同左	本社で製造された毒劇物は速やかに同笠の毒劇庫に移動され適正に保 管がされていた
製造品調整回数	不適合製品報告書の監視	特になかった	社内不適合ではあったが手直し等で 特採だった	社内不適合	今期も不適合製品が無かった

(8) 環境関連法規への違反、訴訟の有無

1. 環境関連法規等の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果(2022年12月10日) 現在、違反はありませんでした。

遵守評価日： 2024年11月15日

法規・条例・規制	適用内容又は規制基準値	備考	対象事業所		遵守状況
			本社	同笠	
水質汚濁防止法	・適用される排水基準を遵守	環境基本法及び袋井市での基準を参考に法令遵守	●		○
		水濁法指定化学物質の把握(硝酸)	●		○
	・排水の水質測定を行いその結果を記録する	毎月 COD検査 年1回 分析機関にて測定	●		水質検査計量証明書
	・構内から有害物質の浸透を起こさない	定期的な点検・補修	●	●	設備点検記録表
騒音規制法	・法令遵守	規制基準遵守、設置届			○
悪臭防止法	・敷地境界にて悪臭の発生が無い事	近隣からのクレーム無し	●	●	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・保管施設の表示と保管基準の遵守	掲示板	●	●	○
	・収集運搬業者及び処分業者との委託契約	収集運搬、処分業登録許可証の確認	●	●	許可証確認済み
	・マニフェストの管理	A票、B2票、D票、E票の発給・管理	●	●	マニフェスト確認済み
	・マニフェストの期間内返却	90日以内又は180日以内	●	●	○
	・マニフェスト写しの保管	5年間	●	●	○
	・委託契約書の保管5年間保存	許可書更新5年	●	●	委託契約書確認
	・マニフェスト交付状況の報告	法令遵守	●	●	2024/6月報告済み
	・処理、委託先の現地確認	現地確認の実施	●	●	処分実地確認 10/25
	・水銀使用製品産業廃棄物の適正管理	破砕の無いように保管し許可業者に処理を依頼する事	●	●	○
毒物及び劇物取締法	・毒物劇物輸入登録	毒物劇物取締法第4条規定 有効期間の確認	●	●	有効期限確認
	・毒物劇物一般販売登録	毒物劇物取締法第4条規定 有効期間の確認	●	●	有効期限確認
	・毒物劇物製造業登録	毒物劇物取締法第4条規定 有効期間の確認	●	●	有効期限確認
アルコール事業法	・アルコール販売事業許可	アルコール事業法規定 H13年4月1日許可通知	●		○
消防法	・危険物製造所等設置許可(消防法第11条規定)	危険物屋内貯蔵所、製造所、取扱所設置許可	●	●	○
	・設備点検実施	定期的に危険物施設を点検する事	●	●	設備点検記録表
労働安全衛生法	・労働安全衛生法規定 法令順守	適正管理・適正資料の保管	●	●	○
	・酸素欠乏作業に関する法令	作業主任者の選任 (寺田 昌隆)	●		○
	・特定化学物質の取扱いに関する法令	作業主任者の選任 (寺田昌隆/鈴木俊/西尾祐介)	●		○
	・有機溶剤作業に関する法令	作業主任者の選任 (辻 正高)		●	○
	・フォークリフトの有資格者運転	技能講習修了者による運転	●	●	有資格者一覧表
	・保護員の適正管理、完全着用	管理責任者の選任(熊切 圭佑 / 古本 南早)	●	●	保護員管理責任者8/1選任
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR制度)	・法令遵守	定期的に参考資料の確認	●		○
		指定化学物質の移動の把握	●		2023年度届出完了
食品衛生法	・添加物製造業営業許可	食品衛生法第52条規定 許可期限の確認	●		有効期限確認
	・食品等取扱者の検便		●		定期検便実施済み
	・食品添加物製造設備定期点検の実施		●		定期点検確認
浄化槽法	・法令遵守	設備届出・定期保守点検・定期清掃	●	●	保守点検実施確認
		水質の定期検査(11条検査)の実施	●	●	法定検査実施済み 2/29
フロン排出抑制法	・第一種特定製品の設置環境・使用環境の維持保全	本社・工場： 12台 同笠工場： 15台	●	●	○
	・簡易点検を実施し記録を作成し保存する		●	●	点検記録表確認
	・漏洩、故障等が確認された場合は許可業者に依頼する事	第一種フロン類充填回収業者	●	●	○
	・機器廃棄時、関係書類の保管	廃棄後3年間保管(回収依頼書、引取証明書、点検記録等)	●	●	○
自動車リサイクル法	・法令遵守	廃棄時、法に基づく手順を実施する	●	●	○
小型家電リサイクル法	・法令遵守	廃棄時、法に基づく手順を実施する	●	●	○
家電リサイクル法	・法令遵守	廃棄時、法に基づく手順を実施する	●	●	○
静岡県条例	・産業廃棄物の適正な処理に関する条例第8条	産業廃棄物管理責任者の設置	●	●	○
	・産業廃棄物の適正な処理に関する条例第10条	選搬又は処理の状況等を実地確認し、不適正は報告する	●	●	○

* 其々の法令、規制等が該当する事業所は●印で表し、法令順守しているときは○印で表現しています

2. 違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟も過去5年間ありませんでした。

(9)-1 代表者による全体の評価と見直し・指示

☒ 定期見直し ☐ 臨時見直し

代表者署名		西野 勝皓	環境管理責任者署名	寺田 昌隆
見直し実施日		2024 年 11 月 15 日	情報提供日	2024 年 11 月 15 日
見直し項目		実績評価	見直しの必要性	指示（変更の有無）
1 組織の概要、事業内容		まだ組織に対する理解が十分ではない。	管理職の理解を促し、自部署への落とし込みを図る必要がある。	会議や打ち合わせの都度、組織の役割について説明および確認を行う。
2 対象範囲、取組の組織、役割		責任と権限についての理解が十分ではない。 縦割り組織のような曲解がある。	特に部署間で対象範囲が重なる場合においては部署内および部署間での対話を経て定める必要がある。	権限の範囲を常に確認し、対象部署や対象となる職位が責任者や権限オーナーであることを言語化する。
3 経営方針		経営理念を基に行動指針や方針を定めているが、十分に共有されていない。 一方で各自の年間目標は方針を出発点としているため、間接的に実行しているとも言える。	全従業員に対して経営方針をより浸透させるために、掲示物や共有の機会を増やす必要がある。	構内掲示物の見直し、方針伝達機会の増加を行う。
4 環境経営方針		掲げられた方針に対する活動は概ね活発であった。 一方、従業員周知に関しては不十分であった。	関係者のみならず、全従業員が関与しているという意識など、全社的な理解度を向上させる必要がある。	全従業員を対象に学びの機会を充実させる。 これは回数の増加ではなく、内容の充実を指す。
5 次年度の環境経営計画		本社工場は産業廃棄物と経由を修正した。 同笠工場は LPG と総排水量を修正した。	計測から除外されていたものがあり、計測の必要がある。	除外されていた産業廃棄物などを含めた計測を行う。
6 当年度の環境活動内容		毎月、関係者による会議を実施することで活動は活性化した。	全社員が活動内容とその結果を知る機会を設ける必要がある。	1 年の活動内容や結果報告の機会を設けることを検討する。
7 環境経営目標の実績	CO2 排出量削減	計画通り削減された。	特になし。	削減の努力を継続する。
	電力使用量削減	計画通り削減された。	設備更新などを機会として省エネに寄与する必要がある。	更新設備における環境負荷低減効果を考慮した検討を行う。
	ガソリン使用量削減	計画通り削減された。	車両更新などを機会として省エネ車両を導入する必要がある。	更新車両の選択する上で環境負荷低減効果を考慮する。
	軽油使用量削減	計画通りではなかった。	効果的な配達エリアを模索する必要がある。	自社のみならず、協力会社にもエリアや配送ルートを効果的に組むよう検討する。
	LPG 使用量削減	計画通りではなかった。	温水使用条件を最適化する必要がある。	可能な限りの生産計画に基づいて常温水で生産可能な場合は、極力温水を使用しないよう努める。

(9)-1 代表者による全体の評価と見直し・指示

	産廃排出量削減	計画通りではなかった。	木くずを排出量に算入する必要がある。	木くずを排出量に算入する。
	総排水量削減	計画通りではなかった。	容器洗浄方法など排水量を削減する必要がある。	容器洗浄方法を検討する。
	化学物質管理	適切な管理がされていた。	特になし。	管理に関する知識などを他の社員にも広げていく。
	製造品調整回数	不具合等はなかった。	とくになし。	結果の傾向などを生産部門と品質管理部門で共有し、分析をはかることでより安定した生産を目指す。
8	環境関連法規等の 遵守状況	法令に則り適切に活動した。	法規制の改訂などを常時アップデートする必要がある。	法令改訂に伴う注意喚起機能を有するサービスを利用する。